

キリギシナニワズと命名

美唄市 新田 紀敏

はじめに

前回は斜里でのカムチャツカナニワズ発見の経緯について書きましたが（新田・内田 2022）、これはその時最後に予告したきりぎしやま 峠山の話です。

2022年6月に植物研究雑誌で分類未定だったナニワズ類植物をカムチャツカナニワズ *Daphne kamtschatica* Maxim. の変種キリギシナニワズ *D. kamtschatica* Maxim. var. *kirigishiensis* N.Nitta & Ken Sato として記載しました（Nitta and Sato 2022）。以降はナニワズ *D. jezoensis* Maxim. 以外は支障が無い限り和名からナニワズを省略して記述します。キリギシは地下茎を伸ばさず、夏季休眠せず、夏季の葉数が多いことで母変種と区別します。今のところ産地は空知地方芦別市にある峠山のみです。峠山の中でも石灰岩の岩壁基部や岩屑の溜まった崖錐上だけに見られます（Nitta and Sato 2022）。

落下した個体を見たことがあるので、岩壁上部の植物が生えた所にもあるようですが確認は困難です。

ナニワズとは

まずナニワズ類はどのような植物かを復習しておきます。ジンチョウゲ属 *Daphne* の植物は世界では地中海地方を中心に100種近くあるとのこと。葉が柔らかく、常緑性ではないオニシバリ亜節 Subsect. *Pseudomezereum* に属するものがいわゆるナニワズ類で日本とその周辺に4分類群が分布するとなっていました（米倉 2017）、キリギシが発表された時点での知見を総合すると表1のようになりました。共通した特徴は、高さ0.5-1.5mほどの低木で、葉は互生し全縁、花は花弁がなく萼が筒状となっており、その先端が4裂して開くなどです。

表1 ジンチョウゲ科オニシバリ亜節一覧

和名	学名	主な特徴	分布
ナニワズ	<i>Daphne jezoensis</i>	花は黄色。夏に葉をすべて落とす。	北海道、本州（中部以北）、千島、サハリン
カムチャツカナニワズ	<i>D. kamtschatica</i> var. <i>kamtschatica</i>	花は白。夏も葉を落とさない。長い地下茎を持つ。	北海道（斜里町）、カムチャツカ、千島、サハリン？
キリギシナニワズ	<i>D. kamtschatica</i> var. <i>kirigishiensis</i>	花は白。夏も葉を落とさない。長い地下茎はない。	北海道（芦別市峠山）
オニシバリ	<i>D. pseudomezereum</i> var. <i>pseudomezereum</i>	花は外側が紫、内側が黄～緑を基本に変異がある。夏に葉をすべて落とす。	本州（南東北以南）、四国、九州、済州島
チョウセンナニワズ	<i>D. pseudomezereum</i> var. <i>koreana</i> または <i>D. koreana</i>	花は外側が紫、内側が紫～緑を基本に変異がある。夏も葉を落とさない。	関東以南の山岳地に点在、朝鮮半島、沿海州、サハリン？

米倉 2017、Nitta and Uchida 2020、Niita and Sato 2022 に筆者の知見を加えて作成。